**研究ノート**

**『数学史研究』投稿用テンプレート(Word用)[[1]](#footnote-1)\***

**会誌に関する特別委員会[[2]](#footnote-2)†**

1. **はじめに**

このノートは、『数学史研究』に投稿する論文をWordで作成する際のテンプレートである。本テンプレートを上書きすると、1ページ32行、1行40字になる。テンプレートはA4版に設定してあるが、出版の際はB5版に縮小して印刷される。

本文で用いる全角文字[[3]](#footnote-3)は游明朝[[4]](#footnote-4)、MS明朝[[5]](#footnote-5)、ヒラギノ明朝[[6]](#footnote-6)のいずれかとしサイズは11.5ポイント、半角文字[[7]](#footnote-7)は上記３書体あるいはTimes New Romanでサイズは12ポイントとする。半角文字のサイズを全角文字より0.5ポイント大きくするのは、バランスをよくするためとLaTeXの仕様に合わせるためである。本テンプレートでは表1以外は游明朝Regularを用いる。

**表1.　書体見本**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 書体 | 全角文字(11.5pt) | 半角文字(11.5pt) | 半角文字(12pt) |
| 游明朝Regular | 甲乙丙丁あいうえ | ABCDabcd1234 | ABCDabcd1234 |
| MS明朝 | 甲乙丙丁あいうえ | ABCDabcd1234 | ABCDabcd1234 |
| ヒラギノ明朝 ProN | 甲乙丙丁あいうえ | ABCDabcd1234 | ABCDabcd1234 |
| Times New Roman |  | ABCDabcd1234 | ABCDabcd1234 |

1. **ヘッダとフッタ**

掲載が決まったら、タイトルページのヘッダに本テンプレートのような書誌情報、フッタに著作権表示をする。偶数ページのヘッダには左端にページ番号、中央に著者名、奇数ページには右端にページ番号、中央に題目（長い題目は25文字以内に簡略化したもの）を記載する。WordでPDFを作成する場合、おそらく最も難しいところであろうが、以下の手順で行うとできる。

1. **タイトルページのヘッダとフッタ**

[挿入] 🡪 [ヘッダ] 🡪 [ヘッダの編集] 🡪

　☑️先頭ページのみ別指定

☑️奇数/偶数ページ別指定

　☑️文書内テキスト表示

[ヘッダ] 🡪 [空白1箇所] 🡪 左端の[ここに入力]を削除し書誌事項を日本語で入力

[フッタ] 🡪 [空白３箇所] 🡪 右端の[ここに入力]を削除し著作権表示(©️2021日本数学史学会)を入力(2021は当該原稿の出版年に置き換える)

1. **奇数ページと偶数ページのヘッダ**

カーソルを2ページ目のヘッダに移動。

[ヘッダ] 🡪 [空白3箇所] 🡪 中央の「ここに入力」を削除し著者名を日本語で書き込む。

左右の「ここに入力」を削除

カーソルを3ページ目のヘッダに移動。

[ヘッダ] 🡪 [空白3箇所] 🡪 中央の「ここに入力」を削除し25文字以内のタイトルを日本語で書き込む。

左右の「ここに入力」を削除

ヘッダを閉じる。

（失敗したときはヘッダを削除しやり直す)

1. **ヘッダにページ番号を記入**

カーソルを２ページ目におき、[ページ番号] 🡪 [ページ番号] 🡪

位置　ページの上

配置　外側

「最初のページにページ番号を挿入する」にはチェックをつけない。

[書式]

開始番号に印をつけ先頭ページ数[[8]](#footnote-8)を記入する。

OK 🡪 OK

ヘッダを閉じる。

（失敗したときはページ番号を削除しやり直す）

ページ番号の挿入については

https://support.microsoft.com/ja-jp/office/ページ番号を挿入する-9f366518-0500-4b45-903d-987d3827c007?ui=ja-jp&rs=ja-jp&ad=jp#ID0EBABAAA=Windows

が参考になる。（2021年7月23日閲覧）

1. **受理日、所属**

掲載が決まった後、受理日および所属はタイトルおよび著者名に脚注により記載するが、通し番号ではなく適当な記号を用いる。

1. タイトルあるいは著者名の右端にカーソルをおき、[挿入]メニュー
2. [脚注]
3. 「任意の脚注記号」の欄に適当な記号[[9]](#footnote-9)、たとえば$を入力すると脚注記号が[[10]](#footnote-10)$となり、脚注が使える
4. **参考文献の書き方**

参考文献は、本文あるいは脚注で引用したものを著者の50音順あるいはアルファベット順に下記のように並べる。書籍の書名は『』で括り、著者、書名、発行所、発行年を記す。なお、古典籍は、発行所と発行年の代わりに所蔵館などを記す。雑誌掲載論文は、著者、題名、雑誌名、巻号、出版年、ページを記す。原典の影印が公開されている場合、URLを記すのが望ましい。題名は原文通りにし、著者名は常用漢字に置き換えたものでよい。

**参考文献**

[1] 関孝和、角法并演段圖、東北大学デジタルコレクション、平山文庫、MA/387

https://www.i-repository.net/il/meta\_pub/detail

[2] 建部賢弘、『發微算法演段諺解』、京都大学数学教室貴重書ライブラリ

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000167> (2021年年8月29日閲覧)

[3] 日本学士院（藤原松三郎）、『明治前日本數學史』第二巻、岩波書店、2008. [第1刷1956]

[4] 原亨吉、『近世の数学』、筑摩書房、ちくま学芸文庫、2013. [初出は、『数学史』、筑摩書房、1975]

[5] 藤原松三郎、和算史ノ研究、東北數學雑誌、第一輯、第四十六巻(1940)、123-134. [『東洋数学史への招待』、東北大学出版会、2007、所収]

[6] 三上義夫、關孝和の業績と京坂の算家並に支那の算法との關係及び比較(一)、東洋學

報、第二十巻(1932)、217-249. [『三上義夫著作集』、第2巻、日本評論社、2017所

収] 東洋文庫ERNEST <https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/> (2021年8月29日閲覧)

[7] D.T. Whiteside, Patterns of Mathematical Thought in the Later Seventeenth Century, *Archive for History of Exact Sciences*, Vol.1, No.3 (1961), 179-378.

*Journal of the Japanese Society for the History of Mathematics*

Series III, Vol.0 No.1 (2021), 6-10

**Template for submission to the Journal of the Japanese**

**Society for the History of Mathematics**

**Special Committee on the Journal**

**Abstrac**t

This note is both a template for writing papers for Journal of the Japanese Society for the History of Mathematics using word and a manual for writing papers for submission.

**Key Words** : **template, sample file, word, submission, manual**

1. \* 受理日：2021年7月24日, 改定稿受理日：2021年10月30日、採択日：2021年11月5日 [↑](#footnote-ref-1)
2. † osada@lab.twcu.ac.jp [↑](#footnote-ref-2)
3. 漢字、仮名、ギリシャ文字など2バイトの文字と記号。 [↑](#footnote-ref-3)
4. Word 2016以降およびMicrosoft Word for mac 2016以降のデフォルトのフォントは游明朝Regularである。 [↑](#footnote-ref-4)
5. Word 2013までデフォルトのフォントはMS明朝であった。 [↑](#footnote-ref-5)
6. OS Xには標準でヒラギノ明朝が搭載されている。 [↑](#footnote-ref-6)
7. 1バイトの英字、数字、記号。半角カナは除く。 [↑](#footnote-ref-7)
8. 先頭ページ番号は掲載されることが決まった後、編集委員会から連絡がある。 [↑](#footnote-ref-8)
9. §（セクション）などの全角の記号も使える。 [↑](#footnote-ref-9)
10. $ ここに受理日などを書く。 [↑](#footnote-ref-10)